

開発コンサルタントの原点から開発投資へ

～投資者としての役割を考える

開発コンサルタントの役割は、第一に良い開発事業を形成すること、そしてその事業を実施に結び付け、さらに事業の運用条件を整えることに貢献することである。良い開発事業とは、一義的にはもちろん相手国への開発効果が高いことであるが、政府開発援助（ODA）の場合は日本の貢献を明示できること、できれば日本企業の利益にもつながることが、良い開発事業の条件であろう。このような判断の優先順位を間違えないことが、重要である。

ODAによるインフラ整備に呼応して、日本企業が進出したことがアジア諸国の発展に貢献したことは、既に確立された事実と言ってよい。マスタープラン策定は、良い開発事業を形成する方法であるが、日本企業を含む民間投資を視野に入れずに良いマスタープランは策定できない。レックス社は、地域開発マスタープランの策定を得意分野の一つとしているが、策定においては民間を視野に入れる意識を持つようにしている。

私自身は四半世紀前、トルコ南東アナトリア地域のマスタープラン調査に基づいて、経団連で投資セミナーをさせていただいたことがある。複数の日本企業から開発投資の引き合いがあったが、フォローできる立場になく成約しなかった。レックス社設立後、ミンダナオ島のダバオ地域でマスタープラン調査を担当し、アバカ産業の再興を提案したが、その実現の第一歩としてアバカ繊維による手工芸品の開発輸入

を目指した。

アバカ農園を開くために、ダバオの有力企業家に500ヘクタールの土地を提供していただくとともに、少数民族（チボリ族）がアバカ繊維を用いて作るティナラック布の手工芸品製造を産業として育成することを目論んだ。ティナラック布を用いてディスコバッグと称する製品を500個試作してもらい、試験販売を気取って日本で身内や友人に売りつけた。大変好評であり、まずは委託販売をしようと考えて、下北沢でいくつかの店にあたった。

レックス社も創業間もないころであり、財務的にも弱体で、またそもそも片手間ではできないことではなく、結局は断念した。当時は個人として、このような事業をしようと考えたのであるが、今ならば事業化を支援する国際協力機構（JICA）スキームもあり、その前に技プロでパイロット事業としてやってみることも可能だろう。そういう意味では恵まれた時代になったものだと思う。この程度の小さな事業ならば、開発コンサルタントでも、自ら投資家となることができる。大きな事業になると、開発コンサルタントとしては、他の事業主体に協力して、実施体制を構築し実施条件を整えることが、主たる仕事になるだろう。さまざまな役割で事業に参画する企業などによって実施体制を構築し、開発事業を形成してビジネスプランを作成する必要がある。

開発事業を形成する中で、相手国側に立ってより良い事業とすることは、



(一社)海外コンサルティング企業協会 理事
 (株)レックスインターナショナル 代表取締役 橋本 強司

開発コンサルタントが最も良くなし得ることのはずである。またビジネスプランを作成する上で、相手国側特有の条件によるリスクにつき検討して、収益性を確保することも、開発コンサルタントの役割のはずである。さらに、組織・制度に係る実施条件の整備や、事業運営に必要なノウハウについての訓練や人材育成にも、開発コンサルタントの果たすべき役割がある。

これらの役割を十分に果たす上で、開発コンサルタントとしても、当該の事業に対して投資・出資をするのが良いと私は考えている。事業主体である企業と比べて、たとえ出資額はひと桁・ふた桁小さくても、事業に係る開発コンサルティング業務に対する信頼性を高め、その質を上げることに効果があるだろう。

より良い開発事業を形成するためのマスタープラン策定、政治面・社会面をも含んで開発効果を幅広く検討するための平和構築アセスメント、ビジネスプラン作成。これらにおいてレックス社はそれなりに実績を有している。もう一歩進んで、開発コンサルティングを担当した地域及び事業について、額は少なくとも開発投資にも参画すること、これが今後目指すところである。これは創業時の志に立ち戻ることでもある。



一般社団法人 海外コンサルティング企業協会

1964年に設立され、わが国のODAを中心に海外で活躍する開発コンサルティング企業などの振興を通じ、国際協力の促進に寄与することを目的として活動しています。

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル8F Tel : 03-3593-1171 Fax : 03-3593-1172

<http://www.ecfa.or.jp/>